

## 出前トークをしています

立地適正化計画の出前トークをしています。  
計画に関して、詳しくは都市計画課（☎9190）  
まで問い合わせてください。



廿日市商工会議所青年部  
吉本 卓生 さん

### Profile

(特非) キッズNPO理事長。  
ここにこの森保育園、託児  
保育にここにキッズなど、  
保育を中心とした活動に取  
り組む。

## 子育てしやすいまち そのイメージを定着させる

まちに若い人を呼び込むには、保育施設  
の場所と、保育内容が鍵になります。  
保育施設のニーズは、駅近や自宅とスー  
パーまでの道中など、いわゆる「まちな  
か」にあります。ただ、土地代や周辺環  
境への配慮、駐車場の整備など、まちな  
かに保育園を作るにはクリアしないと  
いけない問題が多くあります。比較的土  
地がある中山間地域も理想ですが、少  
子化の今、民間での経営は難しいです。  
鳥取県の中山間地域で、幼稚園がで  
きたことで移住がすごく増えた地域が  
あります。佐伯や吉和地域も、「自然が  
好き」という人を魅了する保育内容の  
施設を作り、人を呼び込むことができ  
る資源がありますよね。  
廿日市市は合計特殊出生率が県内でも  
低いそうですが、小学校入学前の子ども  
とその親世代（子育て世代）の転入が非

常に多いです。これからの時代、子ども  
を産みたい人が産みやすい環境を作り、  
かつ、市外からの子育て世代の転入とい  
うトレンドも維持できれば。そのために  
は、「働く場」と「子育て環境」がいか  
に充実しているかが重要ではないでしょ  
うか。仕事があるまちに若い人は増えま  
すし、大野・筏津地区に検討されている  
子育て支援センターや学童保育などの子  
育て環境がそろう場所があれば、その近  
くに住みたいと思うでしょう。  
廿日市市は少しずつ「子育てしやすい  
まち」と認識されるようになってきたの  
で、そのイメージをより定着させていく  
ことも必要だと思います。施設など、  
ハードの整備にはお金も時間も必要です  
ので、子育てのソフト施策と併せて進め  
ていければいいですね。



佐伯商工会青年部  
梶本 誠 さん

### Profile

吉和にある梶広建設(株)の取  
締役員を務める。  
「吉和げんき村」や、さいき  
水まつりなどを通し、中山  
間地域のにぎわいづくりに  
取り組む。

## 中山間の人による 中山間のためのまちづくりを

これからの中山間地域は、新しいもの  
をどんどん作っていくのではなく、今あ  
る機能を維持していくことが重要。地域  
の人が地域のものを使わないと、いず  
れ商業施設や交通機関が撤退して、そ  
の結果、困るのは自分たち。その感  
覚があるので、地域は地域が維持して  
いかなければと思います。  
意外と吉和はコンパクトで、足りて  
いないものはないんです。強いて言え  
ば雇用。人を呼ぶために作られた吉和  
の定住促進住宅は満室ですし、人を呼  
ぶことと雇用は切り離せないのだと思  
います。中山間地域には自然を生かした  
観光資源があるので、今の観光にプ  
ラスアルファし、これまでにない雇  
用の創出をできればいいですね。  
立地適正化計画で方向性が出されて

る事業の1つで、吉和福祉センター周  
辺に生活に必要な機能を集約する「小  
さな拠点づくり」は、とても興味深い  
です。吉和ICも近いので、その周辺  
で、吉和の人たちによる「道の駅」な  
どができれば、地域が活性化されてい  
いいですね。市内全地域を全て同じよ  
うに便利に開発することはできないで  
すし、「吉和にはなくて沿岸部にある」  
というは仕方ありません。吉和は、吉  
和にしかないもので盛り上げていか  
ないといけません。吉和の若い人で集  
まった「吉和げんき村」は、最近ル  
バーブを特産品にしようとPR活動に  
熱心に取り組んでいます。そういった  
吉和のもので頑張っているところに  
スポットが当たるようになると嬉し  
いですし、地域の皆もやる気が出て  
もっと活気づいていくと思います。



# 担い手から見た— 20年後のまちのあり方

立地適正化計画  
専門部会委員に聞く—  
各地域の商工会で活躍する3人  
に、事業主の目線、市民の目線  
から、これからのまちづくりを  
期待することを聞きました。

## まちづくりはジブンゴト 住む人みんなが考えたまちになってほしい

これからのシティプロモーションを考  
えたとき、日本全体で減っていく人口  
を取り合うには限界があります。廿日市  
市は海から山までいろいろな環境があり、  
自分に合った環境を同じ市の中で選べる  
ので、それぞれの人に合った住みよい場  
所があることをPRする方向に切り替え  
ていくことが必要だと思います。  
また、地元の人が戻りたいと思うまち  
でなければ、他の人がわざわざ住んで  
みたいと思いません。商売をする際、自  
分たちの利益追求だけではなく、そこ  
に住む人たちの「にぎわい」を作り  
続けることも重視しています。大きい  
施設がそろった拠点を作って人を集  
約したら、そんない地域のにぎわい  
が消えてしまわないか。そうならな  
いよう、各地域に行政や事業者、そ  
こに住む人たちの「集

う拠点」があれば、地域のにぎわい  
が残り、何より20年先を担う今のこ  
どもに、地域への「帰属意識」を作  
ることができるのでは。私は関東から  
帰ってきたとき、まちの人や風景、祭  
りなどを見て、この地域に育てられ  
たんだと気づきました。地元の思い出  
があったからこそ「帰ってみようか」  
と思えたので、子どもの思い出作り  
は大切にしたいです。  
また、まちを考える人の若返りが必  
要です。知らないところで勝手にでき  
たまちより、どこに向かっていくのか  
知っているまち、住んでいる自分たち  
で考えたまちに住みたいです。市民に  
計画を「自分事」として捉えてもら  
えるよう、市の成り立ちや計画の中  
身、計画の中でどんなまちにしたい  
か考える機会を作り出すことがまち  
づくりにつながるでしょう。



大野町商工会青年部  
大島 久典 さん

### Profile

[AZLinks] 代表として、広  
告企画や制作を行う。  
広島電鉄ラッピング電車  
「ちようどいい。廿日市号」  
のデザインや、移住・定住  
促進のシティプロモーション  
活動に取り組む。